

学校図書館部会報 No.48

訂正版

発行日：2014年3月24日

発行者：日本図書館協会 学校図書館部会

(部会長：高橋恵美子)

連絡先：〒252-0318 神奈川県相模原市南区上鶴間本町

6-7-3-303

Tel 042-743-1449 (ファクシミリ共)

E-Mail : gakutobukai@jla.or.jp



Index

ページ

学校図書館部会総会のご案内	2
部会意見交換会のご案内	2
夏季研究集会・開催日程のご案内	2
JLA 学校図書館職員問題検討会について	中村崇 3
研究会・集会などの開催情報	4
会員の広場	
学図研・東日本ブロック集会報告	笠川昭治 5
京都府内公立小中学校「学校司書」配置状況調査について	藤谷千尋 6
長野県諏訪清陵高校図書館と塩尻市立図書館を見学して	石黒順子 7
日本学校図書館学会 学校図書館フォーラムに参加して	高橋恵美子 9
日教組第64次教育研究全国集会に参加して	甫刈久美子 11
学校図書館部会役員候補公募の結果のお知らせ	13
学校図書館部会役員補充選出のお知らせ	14
部会からのお知らせ	15

学校図書館部会総会のご案内

日時：2015年5月30日（土）14:00～16:00（13:30 開場）

会場：日本図書館協会 2階研修室（東京都中央区新川 1-11-14）

議題：2014年度活動報告、2014年度会計報告、2015年度事業計画、2015年度部会予算、
役員補充選出、部会規程改正、その他意見交換・協議 等

※議題は部会報発行日現在での予定です。変更になる場合があります。

※部会員の皆様からご意見・ご提案などありましたら、4月25日までに、本誌巻頭の部会連絡先宛に郵送するか、または部会メールアドレス宛に電子メールにてお送り下さい。

※総会終了後、1時間程度幹事会を行う予定です。部会員の皆様もご参加・ご発言
いただくことができますので、お時間に余裕のある方はどうぞご参加下さい。

部会意見交換会のご案内

「学校図書館職員問題検討会経過報告と 参加者による意見交換」

日時：2015年5月30日（土）11:00～12:30（10:30 開場）

会場：日本図書館協会 2階研修室（東京都中央区新川 1-11-14）

内容：検討会委員からの経過報告と参加者による意見交換

※事前の参加申込みなどは必要ありません。当日会場にお越し下さい。（自由参加・無料）

夏季研究集会・開催日程のご案内

8月9日（日）～10日（月）に開催予定！

2015年度第44回夏季研究集会は、群馬県高崎市で開催を予定しています（現在準備中であり、開催地は確定ではありません）。詳しいご案内は、2015年6月頃発行予定の49号部会報に開催要項を同封いたします。

皆様のご参加をお願いいたします。

JLA 学校図書館職員問題検討会について

東京都 中村崇(学校図書館職員問題検討会委員)

発足後の経過

部会報前号でお知らせしたとおり、2014年12月から、「学校図書館職員問題検討会」が発足し、2015年2月28日までに3回の会合が行われました。

2014年12月21日の初回会合では、参加者の自己紹介とこの検討会の課題や進め方についての意見交換を行いました。

2015年1月31日の第2回会合では、学校図書館の使命・役割・機能などについて、平久江祐司・永井悦重・高橋恵美子の各委員がそれぞれ自分の考えを発表し、その後参加者で意見交換を行いました。

2月28日の3回目の会合では、後藤敏恵(岡山県岡山市)・岸洋子(東京都杉並区)・田村修(神奈川県)の各委員が、それぞれの現場(小学校・中学校・高校)での実践や学校司書が担っている役割などを報告し、それらの報告に関して参加者で意見交換を行いました。

これまでの検討は、資格や養成課程や望ましい制度を考える前に、まず学校図書館の基本的な使命・役割・機能などについて話し合う、という趣旨で進められてきました。資格や養成課程や望ましい制度についてなど、具体的な議論は、これからということになります。

今回は3月28日に予定されており、各委員がそれぞれ課題と考える事項やそれについての考えを項目毎に簡潔なメモの形に記して出し合い、これを集約して今後の検討課題やスケジュールを考えることになっています。

部会員からも委員のメンバーに入っており、部会の皆様からのご意見を伺い、反映するよう努めたいと考えています。制度や資格・養成などの問題については、部会員それぞれ、様々なお考えがあると思います。この検討会で検討してほしいことやそのことについてのご意見など、こういった形でも構いませんので、どうぞご意見ご要望をお寄せ下さい。5月30日に行われる部会総会の午前中には、この「検討会」についての意見交換会も行います。どうぞご参加下さいますようお願いいたします。(p. 4 参照)

◎検討会へのご意見・ご要望は

〒252-0318 神奈川県相模原市南区上鶴間
本町 6-7-3-303
高橋恵美子

TEL 042-743-1449 (ファクシミリ 共)
E-Mail : gakutobukai@jla.or.jp へ

関西から出席する委員の旅費のためのカンパにお礼申し上げます。
また、引き続きカンパをお願いします。

部会報前号で上記カンパを募りましたところ、25名の方から約25万円のカンパをお寄せ頂きました。この場をお借りして心からお礼申し上げます。ありがとうございました。

前号にも記しましたとおり、協会財政上の事情により、委員の旅費の保障がありません。遠隔地からご出席下さっている委員が、仮に1年間毎回出席された場合の旅費の総額は、4名分合計で150万円を超えることになります。実際は、全員が毎回すべて出席するとは限りませんので若干少なくなります。

それでも今後もなお皆様からのご支援が必要です。

引き続き、遠隔地から出席する委員の旅費のために、カンパのご支援をお願いいたします。

◎カンパ振込先

郵便振替口座番号：00130-4-486364

加入者名：職員問題検討支援の有志の会

1口1000円・何口でも（もちろん、1000円以下でも構いません）

※上記口座への入金はすべて当会へのカンパとみなします。

※お手数おかけして申し訳ありませんが、振込用紙は郵便局備え付けのもの等をご使用下さい。恐縮ですが、振込手数料は各自ご負担下さい。

※カンパにご協力頂いた皆様個々への収支報告などは、今のところは、申し訳ありませんが予定しておりませんが、いずれ何らかの形でお礼と報告をしたいと考えています。

研究会・集会などの開催情報

日本図書館協会図書館情報学教育部会第2回研究集会 「学校図書館職員養成のあり方を考える」

日時：2015年3月28日（土）10時～12時半

場所：日本図書館協会2階研修室（東京都中央区新川1-11-14）

プログラム：

報告：庭井史絵（慶應義塾普通部）ほか「学校図書館職員養成において扱われる知識と技術（仮）」

報告：岡田大輔（明石工業高等専門学校）「学校司書養成カリキュラムについて」

報告：川原亜希世（近畿大学）「学校司書養成に求められる現職者教育のあり方」

参加費：部会員 1500円（3月21日までに、図書館情報学教育部会への指定

寄付を1口（3000円）以上された方は、会費無料とします）

JLA会員 2000円（ただし、学校図書館職員問題検討会メンバーは会費不要です）

非JLA会員 3000円

申込・問い合わせ：「名前」「部会員または学校図書館職員問題検討会メンバーか否か、否の場合、JLA会員か否か」「所属」を明記の上、3月21日（土）までに申込窓口（jla.delis@gmail.com）（担当：三浦）までメールにてお申し込みください（件名に「教育部会研究集会参加申込」と明記のこと。）

詳細は以下をご覧ください。

<http://www.jla.or.jp/divisions/kyouiku/events/tabid/368/Default.aspx>

会員の広場

学図研・東日本ブロック集会報告

神奈川県立湘南高校 笠川昭治

1月24日(土)・25日(日)に長野県諏訪市と塩尻市で開催された学校図書館問題研究会(以下「学図研」と略)・東日本ブロック集会に参加した。1日目は、長野県諏訪清陵高校の見学と会場校の学校司書である清水満里子さんの実践報告、2日目は塩尻市立図書館・えんぱーく見学の二本立て。東日本ブロック集会とはいうものの、京都・滋賀・兵庫からの参加者も含め28名が参加した。

諏訪清陵高校は、長野県でも有数の伝統校であり、進学校。今年度より附属中学が新たに開校し、中高一貫校としてもスタートした。50分と65分の2種類の授業時間が混在する時間割や体験的・課題探究型学習の実施、SSH(スーパーサイエンスハイスクール)の指定校であるなど話題には事欠かない。

しかし図書館はとても小さく、閲覧室3スパンと準備室1スパン。蔵書冊数は4万冊。その狭いスペースにその内の2万4千冊を詰め込み、壁面書架は天井までの高さ。準備室には集密書架もあり、図書館から少し離れたところに書庫があるそう。また、廊下を挟んだオープンスペースにも閲覧機を設置しており、新聞・雑誌・絵本などを図書館の外へ出すことでスペースを確保していた。

2012年から始まった探究型学習は、当初少人数のゼミ形式でスタート。教員と学校

司書の2名があたり、ワークシートを利用して1年間実施した。翌年からはSSHがらみで情報の授業の見直しがなされ、1年生全員が探究型学習「学び方の学び」に取り組むことになった。週1時間実施で6講座を開講。この講座を担当するのは、情報科教員1名、社会科教員4名、附属中学校の教員4名、学校司書1名。1講座に教員3名と学校司書1名が当たり授業を実施している。授業では「地球環境問題について」のレポートを作成するが、下調べはワークシートを使ってグループで行い、それを元に個人で詳しいテーマを設定しレポートとスライドを作成し、発表も行う。その際の資料づくりは、ICTのモデル校となり10月より導入された45台のタブレットパソコンで行えるようになり、一連の作業が図書館ですべて行えるようになったそう。これを受けて2年生次にも2週に1時間6講座を開講。1年間かけて自分でテーマを設定し課題探求型学習を行っている。

そして2014年度から開校した付属中学校では、朝の読書やEタイムの実施、国語の「おいしい読書」での本の紹介箱づくり、そして図書委員会活動など、学校司書も関わって実施している。まさに1人で1.5校分の大活躍。現在中学は1年生だけだが、これから2年生、3年生と増えてきたときに今の活動を続けていくのは困難だろう。来年度からは中高の兼務発令が出るそう。

が、ここは兼務ではなく、付属中学校にも学校司書を配置してほしいところだ。

2 日目は学図研長野支部の皆さんの車に分乗して、一山越え塩尻駅前の「えんぱーく」へ。塩尻市立図書館を含む複合施設だが、全館が図書館テイストでまとめられていて、1 日いても楽しい施設だった。例えば、図書館では飲食はできないが、えんぱーく内に多数のテーブルやベンチが設置されていて、利用者はそこで食事することができる。また、図書館では参考書を持ち込

んでの自習はできないが、先のテーブルの他にぱーく内に自習室も設置されている。これらのスペースが壁ではなくガラスや簡単な仕切りで分けられているため、開放的・有機的にゆったりとつながり、えんぱーくというひとつの施設を作り上げていた。また、塩尻市立図書館では学校図書館への支援も行っているほか、学校司書の人事を市立図書館と一本化し、研修を充実させるなど働きやすい条件整備にも力を入れている。

京都府内公立小中学校「学校司書」配置状況調査について

京都府立洛西高等学校 藤谷千尋

京都府立高教組司書委員会では、2010 年以来、毎秋京都府内各自治体教育委員会に向けて、公立小中学校への「学校司書」の配置に関する調査を実施しています。調査結果は毎年、「京都の学校図書館・公共図書館の充実を求めるつどい」にて報告してきましたが、2014 年度調査より Web 公開することにしました。調査結果概要と各自治体からの回答、5 年前との比較等を司書委員会のウェブサイトに掲載しております。ぜひご覧ください。なお、司書委員会はブログも作っており、各校の毎月の展示の様子などを掲載しています。併せてご覧いただければ幸いです。

司書委員会ウェブサイト：<https://sites.google.com/site/shishoiinkaidesu/>

司書委員会ブログ：<http://sisyoiinkai.cocolog-nifty.com/blog/>

(連絡先 京都府立高教組書記局 075-751-1645)

長野県諏訪清陵高校図書館と塩尻市立図書館を見学して

埼玉県立川口北高校 石黒順子

2015年1月24日土曜日、私はJR中央線の上諏訪駅に降りた。学校図書館問題研究会（以下「学図研」と略）長野支部が主催する「東日本ブロック集会」に参加するためである。1年で一番寒い時だが天気はよく、列車から八ヶ岳がよく見えた。

初日は上諏訪駅で一緒になった参加者の方々とタクシーで諏訪清陵高校へ向かった。長野県諏訪清陵高校は、創立120年、昨年4月から附属中学も併設された地元一番の伝統校で、諏訪湖に沿った諏訪の町を見下ろす高台に建てられていた。

2階の図書館に入ると、まずその狭さに驚いた。埼玉県では図書館は5階などヘンピなところにあるが、広さは5スパン（2教室半）が普通である。ここは3スパン（1教室半）、司書室を合わせても4スパン（2教室）で、埼玉の半分である。長野の方の話によるとこれが長野県の標準だという。でも場所は職員室と教室をつなぐ廊下に面していて、人通りが多い。その廊下に図書館のテーマ展示をしたり、自由に読める雑誌架を置いたりしているので、狭くてもヘンピな場所よりいいのかもしれない。

参加者は、東京、神奈川、新潟、岐阜、滋賀、兵庫、埼玉、長野各地からで28人と名簿に載っていた。ひとしきり見学した後、着席して司書の清水満里子さんの話を聞くと、狭くてもとてもよく利用されていることが分かった。書架にも精選された本が並んでいる。

その後、新設された中学校の新しい校舎を見学した。中学校には図書室はなく、廊

下に沿った図書コーナーがあった。新しい木製のベンチや書架があつて、少しは本が並んでいたが、あつた本はほとんど借りられているのだそうだ。

床も壁もみな木製の視聴覚室？では、「高校での探求型学習と付属中学校での活動」というテーマで、パワーポイントを使って清水さんが説明してくれた。生徒数は高校6クラス×3学年、中学1クラス×1学年。超伝統校なのだが、SSH（スーパーサイエンスハイスクール）の指定を外されそうになって、あわてて「学び方の学び」を探求したという。中学生は朝の読書やEタイム（英語多読）などで、とてもよく本を読むらしい。他にも各教科で積極的に探究学習に取り組ませ、高校生も含めて読書週間や異なるジャンルの本を組み合わせた図書館福袋の貸出など楽しいイベントを実施しているようだった。

それで司書の清水さんは、高校生も中学生も相手にしていて大変お忙しいようだった。私はセンス抜群の清水さんのことだから、どんなにきれいに図書館を飾っているだろうと思っていた。しかし日常業務に忙殺されて、それどころではないことがよくわかった。

終了後は諏訪の五蔵めぐりと称して、諏訪市にある造り酒屋5軒を順番にめぐった。清陵高校から車で町に下り、歩ける範囲に「横笛」「本金」「真澄」「麗人」「舞姫」と5軒の蔵元があつた。クーポン券1800円で、試飲させてもらった上に酒蔵名入りのお猪口をもらえるという趣向だった。諏

訪は清涼な気候で水がいいから、お酒もおいしいのだろうと思われた。

夜は諏訪湖畔の「紅や」というホテルに泊まった。夕食はいろいろな県の人と話が出来て楽しかった。

翌朝は部屋から湖が見渡せて、湖面に少しずつ日があたっていくのがとてもきれいだった。湖の張り詰めた氷が割れるという神様の「おみわたり」は温暖化のせいかな、ここ数年ないそうだ。湖の周りは遊歩道になっていて霜が降りていたが、ランニングや散歩をしている人がいた。

2 日目は、(学図研) 長野支部の方々の車に分乗して、塩尻市立図書館を見学に行った。「えんぱーく」という名前の市民交流センターは JR 篠ノ井線の塩尻駅から徒歩 8 分、図書館だけでなく、市民が交流できるようないろいろな施設が入っていた。5 階建てで吹き抜けがいたるところにあり、人の気配が建物全体に感じられるように設計されているという。図書館は 1 階と 2 階で、白が基調で清潔感のある作りだった。

児童コーナーのそばに子育て支援センターがあったり、地元出身の筑摩書房の創業者のコーナーがあったり、英訳された日本の漫画があったり、工夫されたコーナーがあった。書架には細かく見出し板を出して

いて、NDC よりも関連書をそばに置くようにしているそうだ。床は荒目の木製でスチールの白い書架と対象的だった。壁のところどころに塩尻の豆知識が組み込まれていて、設計者の意図と遊び心が感じられた。

最後に 2 階のパソコンコーナーで担当者の話を聞いた。基本コンセプトは「知恵の交流を通じた人づくりの場」で、静かな空間より交流の話し声が聞こえるような場を目指したそうだ。それを一般職員に理解してもらおうのが大変だったとか。それから、PC 関連機器はどこも EPSON だった。意識して地元企業の製品を使っているのだろう。

本当にきれいで居心地がよさそうな建物なので、多くの市民が利用していた。パン屋さんもカフェもあるので、1 日いても飽きないだろうと思った。それでも帰らねばならず、関係者にお礼を言って、県外の人たちは塩尻駅に向かった。駅前で信州そばを食べ、お土産を買って帰りの列車に乗った。

2 日間にわたり、長野県の学校図書館と公共図書館のいいところを見せてもらって、とても充実した集会だった。長野のみなさん、お世話になりました。

(次期役員)

日本学校図書館学会 学校図書館フォーラム (2015年2月7日)に参加して

高橋恵美子

はじめに

2015年2月7日(土)、日本学校図書館学会学校図書館フォーラムに参加した。日本学校図書館学会に関しては、さまざまな前評判を聞いていて、できるだけ関わりたくないと思っていたが、テーマが「子どもの確かな学びを支える学校図書館 ～学校司書の養成や研修プログラムをどのように考えるか～」であったので、参加を決めた。会場は帝京科学大学千住キャンパス3号館、プログラムは以下の通り。

14時 開会

基調講演 内藤敏也氏 (文部省初等中等教育局児童生徒課長 学校図書館学会研究会の報告 研究員)

論点整理 大串夏身氏 (昭和女子大学特任教授)

シンポジウム

シンポジスト

内藤敏也氏 (文部科学省)

大串夏身氏 (昭和女子大学)

岡村克志氏 (大田区立久原小学校校長)

相澤めぐみ氏 (荒川区立第一日暮里小学校学校司書)

コーディネーター 小川哲夫氏 (日本学校図書館学会会長 昭和女子大学教授)

17時 閉会

参加人数については、主催者側の発表がなく、正確にはわからないが、60人前後かと思われる。この報告では、特に問題と思われた「学校図書館学会研究会の報告」とシンポジウムを中心に報告する。

学校司書の資格、養成・研修の在り方に関する研究会「学校司書の資格、養成・研修の在り方について—中間報告—」

プログラムの二つめは「学校司書の資格、養成・研修の在り方に関する研究会」の中間報告だった。この研究会は全体会と二つの分科会「養成カリキュラム」「研修プログラム」で構成され、昨年8月に第1回会合を開催、以後月1回のペースで協議を進めているとのことだった。構成員は20名、座長が菅田明子氏、副座長が金子卓氏である。構成員に大串夏身氏、野口武悟氏 (JLA 学校図書館職員問題検討会委員) が含まれていた。報告は座長の菅田明子氏、副座長の金子卓氏、小山守恵氏の三名により行われた。

報告の内容は、まず「学校図書館は、教育課程を中心とした教育活動を支援することが基本的な目的とならなければならない。」「学校司書は、学校図書館の職務に従事する専任職員という位置づけであるが、学校の組織の一員として教育課程を中心とした教育活動を支援する役割を担うこととなる。」など、学校図書館は図書館であるという視点はどこにもないものだった。従って学校司書養成に関しては「司書制度とは異なる学校司書制度として独自のカリキュラムを構想する必要がある。」とされた。また学校司書の活動のうち、協働による授業の質的向上が特にとりあげられており、授業に特化した学校図書館像が展開されていた。

養成カリキュラム構想では、学校司書第Ⅰ種資格 56 単位程度、第Ⅱ種資格 42 単位程度とし、養成カリキュラム案の表が提示された。この表は三つの表からなり、①学校教育に関する科目②学校図書館に関する科目 (学校図書館の運営、ならびにメディアの組織に関する科目) ③学校図書館に

関する科目（学校図書館における教育指導に関する科目）という構成だった。

研修プログラム構想においても、重要なのは「教育活動への支援」と「学校図書館の運営」であるとし、「学校司書が担うことを求められる職務の標準と研修プログラムの関係」という表が示された。

シンポジウム

シンポジストの内藤敏也氏、大串夏身氏、岡村克志氏、相澤めぐみ氏の四人が、それぞれの立場からの発言を行うことから始まった。その後、会場とのやりとりとなり、印象に残った点のみを記述する。

- ・養成カリキュラムにある学校図書館実務実習は大事とする意見と、実習の受け皿がはたしてあるだろうかというやりとり。
- ・教員が図書館に入れない状況で、司書教諭の位置づけがあいまいになるのでは？
- ・大学生にとっての資格取得を考えると、公共図書館の児童部門と学校司書が共通にとれるような科目設定は？ に対して司書科目の流用はできないという意見。
- ・授業担当者への支援に特化しているのでは？
- ・段階的なプランは考えないのか？
- ・高校の学校司書配置の根拠である事務職員配置の規定はどうなっているかに対して、高校の事務職員の複数配置は今でも変わっていない（文科省

内藤氏）。

- ・教員と対等である必要がある。授業の内容に関しては教員が、学校司書は資料提供を行う。（荒川区学校司書 相澤氏）
- ・学校司書と司書教諭は対等でなければならない。

感想

全体として、学図法改正が実現してよかったという雰囲気で行進していた。司会者は「今回は学校司書の方も多数参加していただき～」と発言していたが、会全体は教諭・司書教諭中心の会という印象だった。荒川区学校司書相澤氏の「授業の内容に関しては教員、学校司書は資料提供」という発言も、荒川区の場合はそう言われているのだと感じた。

何より問題なのは、授業支援に特化した学校図書館という見方である。文科省は最近「子どもの居場所」としての学校図書館を強調しているが、場の提供という図書館機能抜きには、それは説明できないと思う。学校図書館はまずは図書館でなければならないということを、ことあるごとに主張していかなければならないと改めて感じた。閉会前に参加者として会場にいた平久江祐司氏（JLA 学校図書館職員問題検討会委員）がコーディネーターから発言を求められ、「すばらしい報告ができた」と発言されていたことも、実はひっかかる。

日教組第64次教育研究全国集会に参加して

神奈川 甫 久美子

2015年2月6～8日、山梨県甲府市で日本教職員組合の第64次教育研究全国集会が開催された。日教組の発表ではのべ1万人の参加が報告されている。

6日午前中の全体集会には、作家・活動家の雨宮処凛が記念講演を行った。ブラック企業に勤める弟の話为例に、教育で自分の権利について教える事の大切さを語っていた。まさに、知る権利を保障する図書館にとって、もっとも大切にしている仕事の一つを後押ししてもらったような気がした。

午後からは26の分科会に分かれてそれぞれの教育分野についての研究報告がなされる。

図書館に関連する第19分科会は「情報化社会と教育・文化活動」で、「学校・地域の文化活動」と「情報化社会の教育・学校図書館」が一緒になっている。初日は合同でレポートが4本。私は神奈川県の高校からの発表として、自校の神奈川県立藤沢清流高校と隣接する藤沢市立の中学校との学校図書館の中高連携の事例を報告した。

2日目からは分かれての小分科会になり、計13本のレポートが出された。しかし昔に比べ、提出されるレポート数は少なくなった。特に高校の学校司書の報告が少なくなってきた気がする。様々な身分で置かれているとはいえ、増えている小中学校の学校司書に比べ、高校の正規の学校司書が少なくなっている事が反映しているのではないだろうか。

“情報化社会の教育”と“学校図書館”

が一緒になっているこの分科会は、情報化社会のレポート、特に電子黒板等を使用した授業実践などと、小中学校の司書教諭が学校図書館を使って読書指導を行った実践、そして高校の学校司書が自身の実践を報告するレポートと、くっきりと分かれてしまっているのが特徴かもしれない。情報化教育と学校図書館でまず分かれ、小中と高校で分かれ、なかなか接点が見いだせないもどかしさがある。

特に、今回高校からのレポートはすべて、正規雇用の学校司書による学校図書館のレポートだったが、高校の学校司書はみな「図書館の自由に関する宣言」（日本図書館協会の綱領）の理念を拠り所に仕事をしている。2日目の午前中の熊本県のレポートにもこれに言及した部分があったが、分科会の共同研究者（分科会助言者 関西大学・赤尾氏、日本女子大学・坂田氏）からは「この宣言は公共図書館のもので学校図書館にはそぐわない」として、頭から否定された。

小中からの学校図書館のレポートのほとんどが、様々な工夫を凝らした読書指導の事例で、実践の中に学校司書の影は見え隠れするが、基本的に司書教諭の発表である。段階を踏んで、いかに読書のスキルを上げていくか。その段階の途中にはベストリーダーの表彰や、読書記録カードの活用など、小中ならではの活動がある。小中の司書教諭の中にどれくらい「図書館の自由に関する宣言」が浸透しているかわからないし、小中の段階では必要な指導もあるだろうが、

図書館の自由の理念だけは忘れずにいて欲しいものだ。

しかし、共同研究者のその指摘に対して、高校の学校司書からは反論があるものの、小中の関係者からは何も、疑問の声もあがらないとはいかがなものだろう。共同研究者自らが認めるところだが、学校図書館学というものはない。専門の研究者もいない（共同研究者も教育学が専門で学校図書館の専門家ではない）。司書教諭も現場で授業や部活などをもち、授業軽減もない中で、学校図書館運営には頭の下がる思いがあるが、学校図書館の専門家ではもちろんないだろう。その中で専任・専門・正規で高校図書館を担っている学校司書の実践を、頭から否定する助言者とは、日教組の全国教育研究集会の中でどのような存在なのか、疑問でしかない。

また、もう一つ疑問なのは、司会から「教育研究集会なので身分問題・労働問題については発言しないように」と再三注意がなされた事だ。福島からのレポートは連名で二人からのレポートだったが、福島の学校司書の現状（PTA 雇用）を報告した後半部分はレポートを採用されず、補足としてフロアから発言しようとした担当者も発言を止められた。教育実践を報告する集会であるのはわかるが、その実践が行われる裏に、公務員ワーキングプアの筆頭にいるような小中の非常勤の学校司書の現状があることを、その場に集まった特に学校図書館にも関心がある教職員に知ってもらう事がなぜ出来ないのだろう。組合とは、日教組とは何なのだろうかと心底疑問に思った。

学校図書館関連のレポート以外では、ICT 機器を効果的に活用しての授業実践や、外国に繋がる子どもたちへの学習に ICT 機器を使った実践等があり、2 日半の日程で

16 のレポートが報告され、小分科会はそれぞれ 40～50 名ほどの参加者があった。

来年度からは分科会の名称を「メディアリテラシーと教育文化活動」に変更するという事が最後に発表された。しかし、図書館にコンピュータ室が同居しているレポートをもって「ようやく情報と図書館のコラボのレポートが出てきましたね」などと言っている司会と共同研究者の分科会に意義はあるのだろうか？ はなはだ疑問の残る集会となったし、他県の高校の司書には「次回は別の分科会にレポート提出したい」とまで言われてしまったが、小中高が一同に集い、情報と学校図書館が一つの場で実践を聞ける貴重な場ではあると思う。撤退するのはすぐにもできるが、学校図書館に関わる教職員に少しでも「図書館の自由に関する宣言」の理念を踏まえた学校図書館の運営を示していく為にも、切に日教組に対して見識のある運営を要望したいものと思った。

学校図書館部会役員候補者公募の結果のお知らせ

2015年 2月11日

部会員の皆様へ

日本図書館協会学校図書館部会役員候補者公募の結果のお知らせ

部会長 高橋恵美子

学校図書館部会規程第10条および学校図書館部会役員選出要綱にもとづき、第34期部会役員の任期満了にともなう次期役員の候補者公募を行ったところ、下記のとおり応募がありましたのでお知らせいたします。なお、各役職とも応募は定数と同数か定数以下でしたので、同要綱により、期日までにご応募頂いた方につきましては、次期役員に確定いたしました。

部会員の皆様には候補者の公募にご協力いただきありがとうございました。次期役員の皆様には、今後の部会運営をよろしくお願いいたします。

記

1. 部会長：高橋恵美子（法政大学等非常勤講師）
2. 副部会長：中村崇（東京都立杉並工業高等学校図書館）
3. 幹事（五十音順）：
 - 石黒順子（埼玉県立川口北高等学校図書館）
 - 梅本 恵（『ぱっちわーく』事務局）
 - 大口和枝（東京都立忍岡高等学校図書館）
 - 太田克子（群馬県立藤岡中央高等学校図書館）
 - 笠川昭治（神奈川県立湘南高等学校図書館）
 - 佐藤千春（東京大学教育学部図書室）
 - 鈴木啓子（兵庫県立西宮今津高等学校図書館）
 - 仲 明彦（京都府立洛北高等学校図書館）
 - 永井悦重（山陽学園大学准教授）
 - 長谷川優子（埼玉県立久喜図書館）
 - 甫仮久美子（神奈川県立藤沢清流高等学校図書館）
 - 堀岡秀清（東京都立足立東高等学校図書館）
 - 松本美智子（神奈川県立百合丘高等学校図書館）
 - 山本恵美子（島根県立出雲養護学校）
4. 監事（五十音順）：
 - 関根真理（東京都立科学技術高等学校図書館）
 - 中村登世子（神奈川県立新羽高等学校図書館）

以上

学校図書館部会役員補充選出のお知らせ

2015年 2月21日

部会員の皆様へ

日本図書館協会学校図書館部会役員補充選出のお知らせ

部会長 高橋恵美子

部会報47号(2014年12月10日発行)において、第34期部会役員の任期満了にともなう次期役員の候補者公募を行ったところ、下記のとおり応募が定数に満たない役職・人数が生じました。つきましては、学校図書館部会役員選出要綱3-3に基づき、定数に満たない役職・人数について、あらためて公募（補充選出受付）いたします。

記

1. 役職と補充選出数

役職と補充選出数：(1)幹事 6名以内

2. 応募資格

日本図書館協会の会員で、かつ学校図書館部会に所属されている方(施設会員に所属される方を含みます)

3. 応募方法

以下の記載事項を明記して、下記送付先に送付して下さい。

自薦・他薦(推薦)を問いませんが、他薦の場合は、候補者本人の了解を得て応募して下さい。他薦の場合の推薦者は、日本図書館協会の会員で学校図書館部会に所属されている方(施設会員に所属される方を含みます)に限ります。

3-1. 記載事項

(1)応募する役職 (2)候補者氏名 (3)勤務先・所属等名称(特にない方は「特になし」とお書き下さい) (4)郵便番号・郵送連絡先 (5)電話番号(自宅・携帯・勤務先等いずれでも構いません。勤務先の場合、連絡可能な時間や内線番号あるいは呼び出しの部署なども適宜記して下さい) (6)電子メールアドレス(お使いでない方は「なし」とお書き下さい)

(7)他薦の場合は、推薦者のお名前と連絡先および候補者本人の了解を得ている旨の記述

3-2. 応募送付先

(郵送の場合) 〒167-0023 東京都杉並区上井草4-13-31 東京都立杉並工業高等学校図書館 中村崇 宛

(電子メールの場合) gakutobukai@jla.or.jp 宛

4. 応募締切

2015年4月30日必着

5. 応募いただいた個人情報および役員選出に関する情報の扱いについて

応募の際にご提供いただいた個人情報は、役員選出手続のために使用します。また、役員により、部会運営のための諸事務に使用される場合があります。これら個人情報のうち、(1) 応募する役職 (2) 候補者氏名 (3) 勤務先・所属等 は、一般に公表されます。

応募・辞退の状況等役員選出に関する情報はすべて公開しますが、個別に受けたお問い合わせの内容については、当事者の合意がない限り公開しません。

6. 補充選出の手順

定期総会(5月30日開催予定 16ページ参照)において協議・選出します。

7. 部会役員選出についてのお問い合わせ窓口

東京都立杉並工業高等学校図書館 中村崇 電話03-3394-2471(代)

部会からのお知らせ

◎学図部会メーリングリストへのお誘い

学校図書館部会では 部会運営を部会員の皆様に開かれたものとし、また、皆様からの意見を部会運営に生かすために、メーリングリストを開設しております。部会員であればどなたでもご参加頂けます。運営の様子がわかります。参加ご希望の方は、部会メールアドレス (gakutobukai@jla.or.jp) へご連絡下さい。

参加にあたっては、(1) 氏名(本名) (2) 日本図書館協会の会員番号(図書館雑誌の宛名ラベルに記載されています) (3) 所属(ない方は不要) (4) メールアドレス をお知らせ下さい。

※提供頂いた個人情報は当部会「個人情報保護方針」(日本図書館協会学校図書館部会ホームページ参照) にもとづき管理いたします。

※メーリングリストへの参加は部会員に限らせていただいております。

協会を退会された方や部会を移動された方など、学図部会員でなくなった場合には、(gakutobukai@jla.or.jp) へご連絡下さい。

部会員でないことが確認された場合、配信を終了させていただきます。

◎各地の情報・各地の実践をお寄せ下さい

部会報に載せたい実践の情報や学校司書の配置情報、各種研究会の参加記など、皆様からの情報をお寄せ下さい。次ページ記載部会連絡先または各幹事(p. 2 参照)までご連絡下さい。ご相談もお受けいたします。

◎研究会・集会等の開催情報を掲載します

各団体等が開催する図書館関係の研究会・集会等の開催情報を掲載いたします。開催日時やテーマ等編集部で要点をまとめて掲載いたします。掲載ご希望の方は、次ページ部会連絡先にご連絡下さい。なお、49号の発行は2015年6月頃を予定しています（50号は未定）。

◎ホームページをご覧下さい

学校図書館部会ではホームページを開設しています。日本図書館協会のホームページから開くことができます。最近の部会報や幹事会の記録などはここに掲載しています。どうぞご参照下さい。
→<http://www.jla.or.jp/school/index.html> でご覧下さい。

◎異動・変更等について

人事異動、転居、改姓等された方は協会事務局（電話 03-3523-0811）へご一報下さい。
メーリングリストに登録したメールアドレスの変更は、部会代表アドレス宛（gakutobukai@jla.or.jp）にお知らせ下さい。メーリングリスト参加者が協会を退会された場合も、協会事務局に加えて、部会にもお知らせ下さい。

◎幹事会はどなたでもご参加いただけます

学校図書館部会は、役員が幹事会を開いて様々なことを話し合い、運営しています。幹事会には、学校図書館部会員であればどなたでもご参加頂けます。開催日時・場所等は下記部会連絡先にお問い合わせ下さい。

また、遠方の会員の方など、会議への直接の参加が難しい方は、次ページ部会連絡先にご意見・ご要望などをお寄せ下さい。役員一同、部会員の意志を反映した部会運営に努めたいと思っています。よろしくお願いいたします。

◎皆様からのご意見・ご提案を募集しています

部会連絡先にご意見や「会員の広場」への投稿原稿をお寄せください。

部会連絡先：部会長・高橋恵美子

〒252-0318 神奈川県相模原市南区上鶴間本町 6-7-3-303

Tel:042-743-1449（ファクシミリ共）

E-Mail:gakutobukai@jla.or.jp